

平成 30 年度兵庫県青少年赤十字研究会報告書



目 次

1. 兵庫県青少年赤十字研究会開催要項	・ ・ ・ ・ ・	2
2. プログラム	・ ・ ・ ・ ・	3
3. 青少年赤十字研究推進校研究報告（要旨と発表データ）		
(1) 芦屋市立精道小学校	・ ・ ・ ・ ・	5
(2) 宝塚市立未成小学校	・ ・ ・ ・ ・	7
(3) 篠山市立城南小学校	・ ・ ・ ・ ・	12
(4) 兵庫県立柏原高等学校	・ ・ ・ ・ ・	17
4. 青少年赤十字研究推進校設置要項	・ ・ ・ ・ ・	26
5. 青少年赤十字研究推進校一覧	・ ・ ・ ・ ・	27
6. 研究会における発表の風景	・ ・ ・ ・ ・	29

平成 30 年度 兵庫県青少年赤十字研究会 開催要項

- 1 趣 旨 青少年赤十字活動を学校生活において実践することにより、児童・生徒の自主性と指導性を養い、世界の平和と福祉に貢献できる青少年育成を目指す。
日本赤十字社兵庫県支部では青少年赤十字研究推進校を設け、研究を委嘱しており、本研究会は研究推進校が実践している研究の成果を発表・共有することにより、各学校での青少年赤十字活動の充実と活性化を図ることを目的とする。
- 2 日 時 平成 31 年 1 月 20 日 (日) 13:00~15:00
- 3 会 場 日本赤十字社兵庫県支部 7 階大会議室
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5
- 4 主 催 兵庫県青少年赤十字協議会
兵庫県高等学校青少年赤十字協議会
兵庫県中学校青少年赤十字協議会
兵庫県小学校青少年赤十字協議会
日本赤十字社兵庫県支部
- 5 後 援 兵庫県教育委員会
- 6 研究発表校 芦屋市立精道小学校
宝塚市立未成小学校
篠山市立城南小学校
兵庫県立柏原高等学校

プログラム

【敬称略】

(1) 開会（13：00～13：20）

開会挨拶 兵庫県青少年赤十字協議会 会長 中野 憲二

日本赤十字社兵庫県支部 事務局長 大久保 博章

来賓挨拶 兵庫県教育委員会事務局 高校教育課 指導主事 藤原 一平

(2) 青少年赤十字研究推進校活動報告、質疑応答（13：20～14：45）【敬称略】

①芦屋市立精道小学校

研究テーマ：阪神淡路大震災を語り継ぐ

発表者：大橋 恋菜、野崎 彩花、若林 弥生

高見 里奈（教諭）、西條 万希（教諭）、乾 芳（主幹教諭）

②宝塚市立末成小学校

研究テーマ：学校・家庭・地域の連携を基盤にした、安心・安全、みんなに優しい
まちづくり

発表者：成瀬 雅巳（校長）

③篠山市立城南小学校

研究テーマ：「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」

発表者：谷 健太郎（教諭）

④兵庫県立柏原高等学校

研究テーマ：①柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

②丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動

③市民の防災意識を向上させる活動

発表者：堂本 泰暉、前川 若奈、芦田 侑衣香、岸田 玲奈、吉見 真尋、

采女 茉由奈、大中 慧飛

久保 哲成（主幹教諭）、土井 敬子（教諭）

(3) 講評（14：45～14：50）

赤十字活動指導講師/兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団委員長 中島 健治

(4) 閉会/事務連絡 (14:50~15:00)

閉会挨拶 日本赤十字社兵庫県支部 事業部長 山本 敏一

「阪神淡路大震災を語り継ぐ」～防災委員会の取り組み～

芦屋市立精道小学校

《活動の要旨》

今から 24 年前、1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分マグニチュード 7. 3 の兵庫県南部地震が起きました。私たちの芦屋市立精道小学校校区は 7 割が全半壊という被害を受け、その地震により、8 人の子どもと 6 人の保護者が亡くなりました。また、当時はまだ小さく、精道小学校に入学してくるはずだった 15 人の子どもも亡くなりました。

そんな精道小学校には、防災委員会というものもあります。防災委員会は、精道小学校で大切にされてきた防災の取り組みを守る仕事をしている市内で唯一の委員会です。

毎週の当番活動として、玄関ホールの震災展示物の掃除や祈りの碑の掃除、献花の水替え、希望の花壇の手入れや水やりなどを行っています。暑い日も寒い日も毎日祈りの碑をきれいにふいて、花の水替えをしています。毎月 17 日になると、精道小学校の祈りの碑の前には、お花が供えられていますのでその水替えをします。

また、阪神淡路大震災と東日本大震災の被災地で咲いていた花を育てている希望の花壇の手入れをしています。本校で大切にしてきたあさがおや、震災の一年後に復興を願って植えられたひまわり、東日本大震災の被災地の彼岸花をはじめ、チューリップやコスモス、ひまわりも育てています。一年中何かの花が元気に咲いています。ここも毎日水やりをして、毎年きれいな花を咲かせて次の年に引き継ぐため大切に育てています。

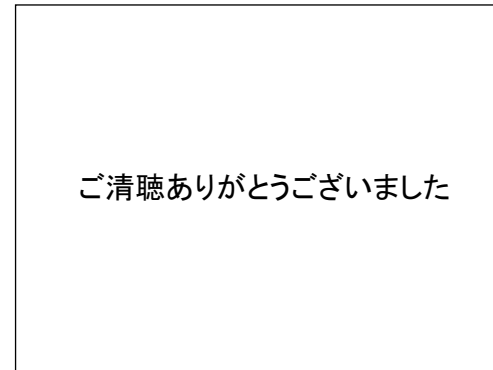
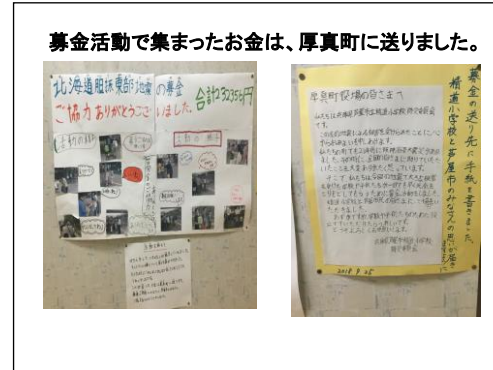
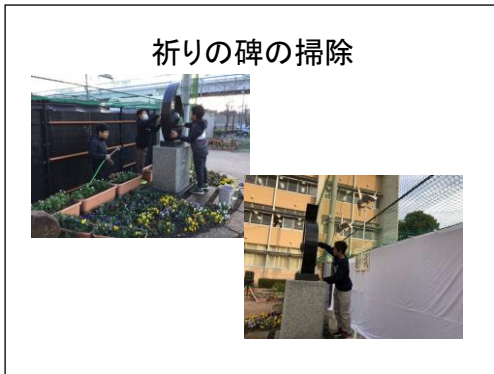
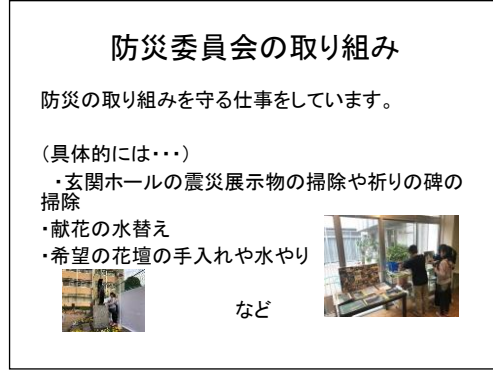
このような活動のほかにも、委員会の時間に随時話し合っ臨時活動も行っています。

今年度は新たなとりくみとして、被災地の 1 日でも早い復興を願って、防災七夕というものを考えました。防災七夕を計画している時に大阪府北部地震が起きました。短冊には大阪府北部地震をうけて、低学年の子ども「もうじしんがきませんように」や「大さかの人のがはやく元気になりますように」という願いを書いて被災地に届けました。

また、9 月 7 日の 2 学期最初の委員会活動で、前日に起きた北海道胆振東部地震の募金活動をしたいという声があがりました。みんなで話し合い、13 日と 14 日の 2 日間、校内募金と駅前と市役所前に立つ街頭募金をおこなうことになりました。

手作りの募金箱とポスターを持ち、募金への協力を何度も何度も大きな声で呼びかけました。私たちも大きな声で一生懸命募金を呼びかけると、たくさんの方が募金にご協力してくださいました。「えらいね」「がんばってよ!」「ありがとう」と声をかけてもらい、地域の方の温かさを感じました。集まったお金は、被害が大きかった厚真町に支援金として送りました。

これからも、精道小学校で代々大切にされている祈りの碑や希望の花壇をみんなで大切に、次の世代へとつなげていきたいとおもっています。



学校・家庭・地域の連携を基盤にした、安心・安全、みんなに優しいまちづくり

宝塚市立未成小学校

本校は、今年度から宝塚のコミュニティ・スクールモデル校として地域と強固に連携・協働した学校運営を行っている。そこで、コミュニティ・スクールの強みを活かし、「安心・安全、みんなに優しいまちづくり」のテーマに基づいて研究推進した。

A コミュニティ・スクールを活かした活動

学校と地域をつなげる活動として、学力アップ支援、安全力アップ支援、環境力アップ支援、生活力アップ支援の実働組織を作り、防災に関する活動、福祉活動、環境奉仕活動などを含む様々な活動を行った。

B 安全力アップ支援（防災に関する活動）

1 このまち大すきプロジェクト～みんなが安心して暮らせるまちづくり～

まちづくり計画見直し委員会（未成小学校地域まちづくり協議会）と連携して、地域のまちづくりについて検討した。

(1) アンケートをとおして、地域の課題に気づき、地域のまちづくりについて考えた。（5・6年全員）

- ・アンケートでは、今住んでいるところが好き（どちらかというところが好き）と答えた子どもが70%、嫌いだと答えた子どもは一人もいなかった。
- ・「地域の良い（自慢できる）ところ」という質問では、地域の人が見守ってくれることなど、地域の人とのつながりに関することが多く、災害時に助け合える地域コミュニティが形成されていることがうかがえる。
- ・まちづくりに関係する「将来この地域がどんなまちになったらいいと思いますか」という質問では、「事件や事故、災害の少ない安全なまち」91%、「保健（健康づくり）や医療（病院など）が充実したまち」74%、「お年寄りや体の不自由な人が暮らしやすいまち」72%と高い割合となり、「防災」「社会福祉」「老人福祉」「障がい者福祉」の必要性を、子どもたちが考えていることがわかった。

(2) 子ども安全マップを持って校区を地域の人たちと見学し、まちの危険なところに気づき、自分たちができることは何かを考え、地域の人たちと意見交流した。（4・5年代表）

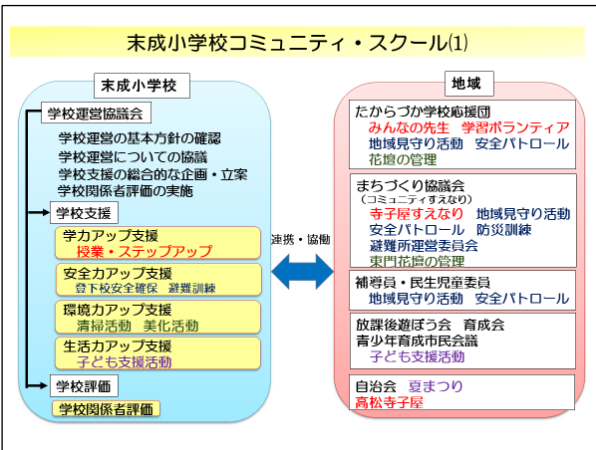
2 その他

地域と連携して、避難訓練、避難所運営訓練、地域防災訓練、「総合治水」の授業など、防災に関する活動を行った。

今後、「このまち大すきプロジェクト」が、子どもたちの「気づき・考え・実行する」活動となるよう、さらに充実・発展させていきたい。また、コミュニティフェスティバルのような学校と地域が連携する機会を使って、子どもたちの力で献血推進に関する活動など、赤十字活動の啓発・推進を行っていきたい。



研究テーマ
**「学校、家庭、地域の連携を
 基盤にした 安心・安全、み
 んなに優しいまちづくり」**
 ～コミュニティ・スクール
 モデル校として、地域と強固
 に連携・協働する強みをいか
 して～



平成30年1月28日(日)

平成29年度青少年赤十字研究発表会

丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動
&
市民の防災意識を向上させる活動
&
柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

兵庫県立柏原高等学校
ボランティア部 (インターアクト部)

未成小学校コミュニティ・スクール(8)

生活力アップ支援 子ども支援活動①




未成自治会夏祭り
未成ジュニア・ウインズ

未成自治会夏祭り
無農薬野菜生産販売(小4)

未成小学校コミュニティ・スクール(9)

生活力アップ支援 子ども支援活動②




たからづか学校応援団
昔あそび(小1 幼稚園)

宝塚ろうあ協会
手話教室(小1・3・5)

未成小学校コミュニティ・スクール(10)

未成小学校

青少年赤十字研究推進「安心・安全、みんなに優しいまちづくり」

学校支援 | 安全力アップ支援
このまち大すきプロジェクト
~みんなが安心して暮らせるまちづくり~

- アンケートをとおして、地域の課題に気づき、地域のまちづくりについて考える。(5・6年全員)
- 子ども安全マップを持って校区を地域の人たちと見学し、まちの防犯・防災の課題に気づき、安心して生活できる環境づくりについて考え、意見交流する。(4・5年代表)

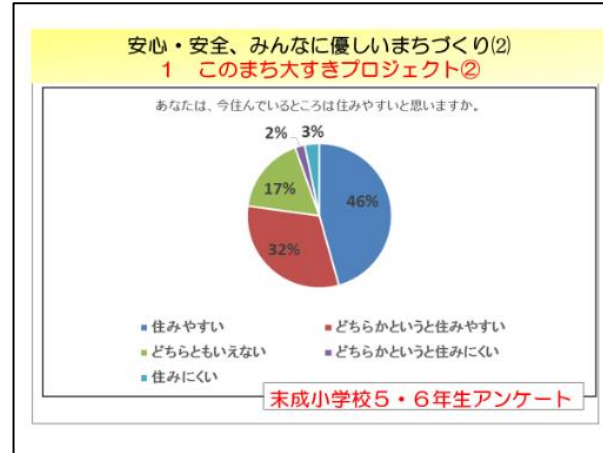
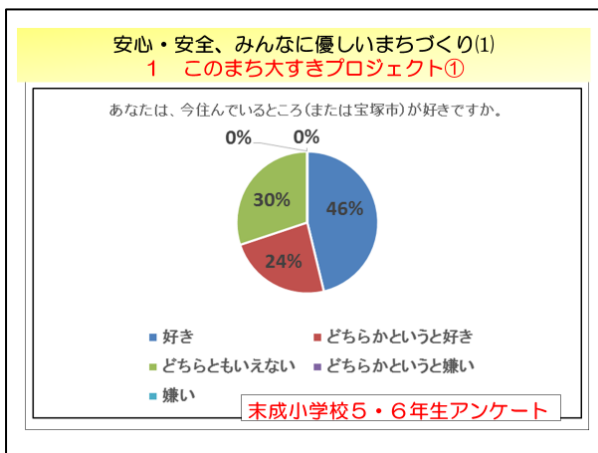
地域

宝塚市 まちづくり計画の見直し各地域でまとめた計画は、2021年度の「第6次宝塚市総合計画」の一編として位置づける。

まちづくり計画見直し委員会
(未成小学校地域まちづくり協議会)

- 地域の現状と課題の確認
- 地域の将来像と基本目標の取りまとめ
- 具体的な取組の検討
- 地域のまちづくり計画の取りまとめ

子どもの意見を聞きたい ← まちづくりについて気づき、考えさせたい →



安心・安全、みんなに優しいまちづくり(3)
1 このまち大すきプロジェクト③

宝塚の良いところ・自慢できるところ

- ・地域の人が見守ってくれる。
- ・地域の人たちがたくさんいて、かわってくれる、やさしい。
- ・地域のボランティアの人たちがたくさんいる。
- ・地域であいさつができる。
- ・安全である。
- ・事件、災害が少なく平和である。

共助

災害時に助け合える地域コミュニティ

未成小学校5・6年生の意見

安心・安全、みんなに優しいまちづくり(4)
1 このまち大すきプロジェクト④

宝塚の良いところ・自慢できるところ

- ・宝塚歌劇がある。
- ・手塚治虫記念館がある。
- ・有名人がたくさんいる。
- ・阪神競馬場がある。
- ・自然が豊かである。
- ・山と川がある。
- ・お店がたくさんある。
- ・交通が便利である。

未成小学校5・6年生の意見

安心・安全、みんなに優しいまちづくり(5)
1 このまち大すきプロジェクト⑤

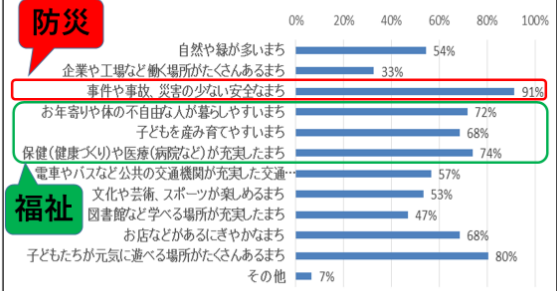
宝塚の悪いところ・残念なところ

- ・歩道が凸凹している。歩道がせまい。
- ・信号がないところがある。
- ・ミラーが見えにくい、少ない。
- ・街灯がないところがある。
- ・不審者がいる。
- ・犬の糞がそのままにされている。
- ・ショッピングモールのような大きな店がない。
- ・遊ぶ場所が少ない

末成小学校5・6年生の意見

安心・安全、みんなに優しいまちづくり(6)
1 このまち大すきプロジェクト⑥

あなたは、将来(5年後、10年後)、この地域がどんなまちになったらいいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



末成小学校5・6年生アンケート

安心・安全、みんなに優しいまちづくり(7)
1 このまち大すきプロジェクト⑦

もし、あなたが宝塚市の市長だったら、宝塚市をどんなまちにしたいですか

自然が多いまちで、自然が壊れてしまわないように、自然の恵みを受けながら、安全なまちにしたい。文化や芸術、絵や文化、外国人にも受け入れられるように、安全なまちにしたい。子どもが安心して遊ぶことができるように、安全なまちにしたい。高齢者にやさしいまちにしたい。昔のあそびや文化を子どもたちにも伝えていく。安全なまちにしたい。

末成小学校5・6年生の意見

安心・安全、みんなに優しいまちづくり(8)
2 このまち大すきプロジェクト①



安心・安全、みんなに優しいまちづくり(9)
2 このまち大すきプロジェクト②

まちをまわって気づいたこと

- ・家のブロック塀が壊れかけている。
- ・溝が深く、はまる危険性がある。
- ・街灯が少ない。
- ・車がたくさん通るが、歩道がないところがある。
- ・道路の歩道線が消えかかっている。
- ・ミラーが付いていないところがある。
- ・交差点に信号の必要などところがある。
- ・スピードを出して通る車がある。
- ・たばこやゴミのポイ捨てがあり、火事の危険性がある。
- ・スマホ歩きをしている人がいる。



安心・安全、みんなに優しいまちづくり(10)
2 このまち大すきプロジェクト③

自分たちができること

- ・危険なことを感じたら大人に知らせる。
- ・危険な場所には近づかない。友達にも知らせる。
- ・注意する看板をつくる。
- ・道路では遊ばない。
- ・歩きながら話に夢中にならない。
- ・道路の端を通る。
- ・お互いが注意していく。
- ・学校で自分たちができるルールを考える。
- ・枝を切る。
- ・溝にグレーチングをかぶせる。
- ・ゴミ箱を置く。



安心・安全、みんなに優しいまちづくり(11)

安全力アップ支援 防災に関する活動①

まちづくり協議会(コミュニティすえなり)
避難訓練・避難所運営訓練

地域住民が末成小学校体育館へ移動し、ブルーシート張り、段ボールベッドや間仕切りセットの組立、子どもたち対象の防災クイズなどを行った。



安心・安全、みんなに優しいまちづくり(12)

安全力アップ支援 防災に関する活動②

末成小学校(小3以外は避難訓練のみ) 末成幼稚園(避難訓練のみ)
まちづくり協議会 保護者 自治会 宝塚市消防本部
避難訓練・地域防災訓練

避難訓練の後、段ボールベッド組み立て・応急担架作成・担架搬送訓練
AED取扱訓練・消火器訓練・消防車説明・炊き出し訓練を行った。



安全力アップ支援 防災に関する活動③

消防士
消防士から学ぶ(小4)
消防士の仕事について詳しく聞いたり、災害にあったときに何をすべきかなどを教わったりしました。



兵庫県土木局 宝塚土木事務所
「総合治水」の授業(小4)
川の働きや河川が被災するメカニズムの説明を聞いた後、「川があふれないようにするための工夫」について考え、発表しました。



「学校、家庭、地域の連携を基盤にした
安心・安全、みんなに優しいまちづくり」に向けて

このまち大すきプロジェクトが子どもたちの「気づき・考え・実行する」活動となるよう、さらに充実・発展させる。

コミュニティフェスティバルのような学校と地域が連携する機会を使って、子どもたちの力で献血推進に関する活動など、赤十字活動の啓発・推進を行う。



「こころ豊かに たくましく 生きる力の育成」を本校の教育目標とし、こころ豊かに将来を切りひらくたくましい力を培い、安全・安心な学校づくりを進めるとともに、夢や目標をもつ自立した児童の育成をめざした。その実現のためにJRCの基本理念や手法を活用しながら教育を推進した。

本校の児童は、明るく人懐っこい児童が多い反面、積極的に自分で考え粘り強く行動が苦手とすることが課題ととらえている。そこで「気づき、考え、実行する～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」を研究主題として、自分で考え進んで行動できる積極性と粘り強く行動する力の育成に重点をおいた。

<3年生>

地域の方に黒豆の育て方を教わりながら、1学期から2学期の総合的な時間を活用しながら黒豆の栽培に取り組んだ。収穫のときには、長い間育ててきたこともあり、子どもたちからは歓声があがっていた。黒豆は丹波地域を代表する特産物であり、地域の方々と交流を図る中、地域を愛し誇りに思う心情を育むことができた。

<4年生>

視覚障がい者の方を講師に招き、障がい者福祉について体験を通して学習を行った。後日、社会福祉協議会の協力を得てアイマスク体験を行った。体験後の振り返りからも「障がい」についての認識が深まり、不自由さに気づき、支え合いの大切さや優しさ等について考える機会となった。

1分間VS(ボランタリーサービス)を終わりの会で行った。道徳の時間に自分が気づいて、どのように行動したのかをクラス全体で共有した。この活動を始めてから、落とし物に気づき拾うという行動、些細なことでも身のまわりのことに気づき、考え、行動に移すことのできる児童が増えたと感じている。

<5年生>

園芸に堪能な職員からサイネリアの栽培方法を指導してもらい、日当たりの良い渡り廊下で大切に育てている。今後卒業式や入学式で会場を飾ったり、お世話になっている地域の方々に贈ったりすることを予定している。この取組も奉仕の心の育成ととらえ、美しく咲いた花を多くの人たちへ披露し喜んでいただくことを、自分たちの喜びとなるようにしていきたい。

<6年生>

学校のろうかを走る人が多いという課題が話し合いの場にあがり、6年生を中心にろうかを歩こうキャンペーンに取り組んだ。実態調査を行いながら、歩いている人に「いいね!」と声をかけたり、ハイタッチをしたりしながら調査を行った。この取組により、学校全体にろうかを歩こうという雰囲気を作られていった。このように走っている人が多いという課題に気づき、どのようにすればこの課題を解決できるのか考え、考えた出した方法を実行することで、学校をより安全に生活できる場所にすることができた。

<児童会>

学校内でのトラブルゼロをめざし、校内にポスターをはったり黄色いビブスを着た子たちが教室をまわり困りごとなどの相談にのったり、一人にいる子に声をかけたり、ハイタッチなどをしながら活動した。



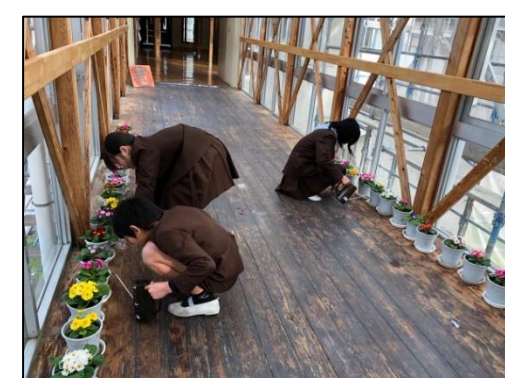
平成30年度 青少年十字 (JRC) 活動 平成30年度 青少年十字 (JRC) 活動年報計画 篠山市立城南小学校

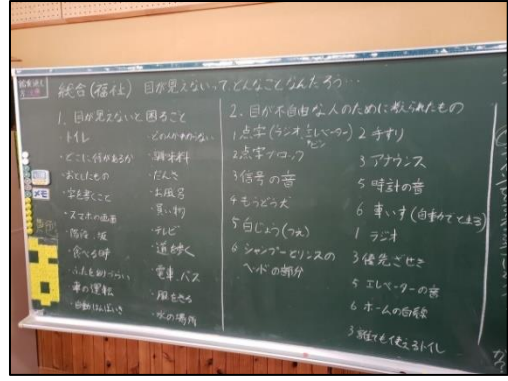
本校の教育目標

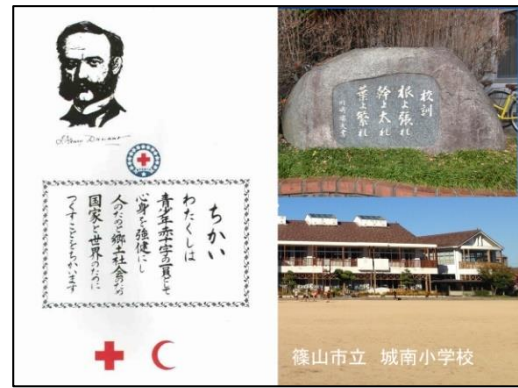
『この春までに たくましく 生きる力』
この春までにたくましく 生きる力
たくましく生きる力を身に付け、夢や目標を持った自立
育成する。

気づき・考え・実行する
主体的に判断し、
行動する児童をめざして

実施内容	実施時期	実施場所	実施者
1. 本校の教育目標を踏まえ、児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	教員
2. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童
3. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童
4. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童
5. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童
6. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童
7. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童
8. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童
9. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童
10. 児童の生活態度を向上させる。	10月～12月	校内	児童







篠山市立 城南小学校

- 研究テーマ ①丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動
②市民の防災意識を向上させる活動
③柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

兵庫県立柏原高等学校

《活動の要旨》

- 1 丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動
 - 1) 平成 30 年度の交流
 - ①6月：フィリピン人ママのクッキング教室
 - ②12月：タイ人ママのクッキング教室
 - 2) 交流を通しての成果
 - ①街中で、外国人の方に挨拶ができたり、話かけられるようになった
 - ②外国人への偏見の壁がなくなった
 - ③交流をした人の国が、親しく、また近く感じられるようになった
- 2 市民の防災意識を向上させる活動
 - 1) 防災教育活動へのきっかけ：市島豪雨災害：平成 26 年 8 月 16 日・17 日
 - 2) 丹波市在住外国人は災害に不安を覚えている
 - ①警報と注意報の違いがわからない
 - ②テロップの日本語なので読めない
 - ③避難場所もわからない
 - 3) この人たちへの防災教育の必要性を感じて、防災紙芝居を思いつく
 - ①豪雨・洪水防災紙芝居：気象庁仙台管区気象台作成
 - ②日本語のシナリオを、わかりやすく、簡単なセリフに直す
 - ③簡単な日本語のセリフを、英語とフィリピン語に翻訳
 - 4) 防災紙芝居の実施の今後の予定
 - ①幼稚園・小学校での定期的な実施へ（文化発表会の代休日に実施）
 - ②篠山学園（介護士養成）：ベトナム人入学、ベトナム語での防災紙芝居実施へ
- 3 柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成
 - 1) 車いすマップ作りのきっかけ
 - ①7年前、神戸の障がい者団体が柏原に観光に来られ先輩が車いすを押すお手伝い
 - 2) 今年度のフィールド調査：7回：5月2回、10月1回、12月1回、2月1回
 - 3) 完成へ
 - ①今学期中の完成を目指す：7回の調査を受けて、マップ作り
 - ②7回目の調査の内容：公衆トイレの調査を

平成31年1月20日(日)

平成30年度青少年赤十字研究発表会

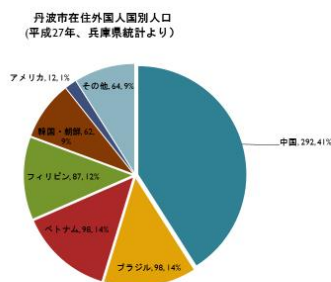
丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動
&
市民の防災意識を向上させる活動
&
柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

兵庫県立柏原高等学校
インターアクト部

第1部

丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動

丹波市内(人口6万5,448人)の外国人人口



丹波市在住外国人と インターアクトクラブとの活動

- 日本語教室「こんにちは」：外国人小学生学習支援
*小学生の出席状況が不安定
*家庭の様子を知りたいと思った
- 平成24年度 丹波在住外国人へのアンケート調査
*31名の外国人にアンケートを実施
*日本語が読めなくて、調査内容が不十分に
- 平成25年度 ブラジル人への聞き取り調査
- 平成26年度 中国人への聞き取り調査
- 平成27年度 フィリピン人への聞き取り調査

アンケート・聞き取り調査より 外国人が望んでいること

- 日本人ともっとたくさん交流したい
- 日本語をもっと勉強したい

今までの外国人との交流

- 平成27年度 外国人ママクッキング教室開始
- 平成28年度 外国人ママのクッキング教室
外国人向け防災紙芝居(地震編)
- 平成29年度 外国人ママのクッキング教室
6月：「市内外国人交流の集い」
で防災紙芝居実施
6月：フィリピン料理
2月：ベトナム料理

平成30年度の交流

- 外国人ママのクッキング教室
- 6月 フィリピン人ママのクッキング教室
*3年生の引退行事です
- 12月 タイ人ママのクッキング教室
*顧問の先生の子どもも参加しました

6月 ブラジル人ママのクッキング教室 講師：日系人のベロニカ美智子さん



Enjoy Cooking



おいしく、できるかな!?



今日の料理は グラタンライスとスイーツ



いただきま〜す



食後のお勉強 ブラジル文化について



ビバ! ブラジル



12月 タイ人ママのクッキング教室 講師：林パタマさん（篠山市在住）



パタマさんがタイでわざわざ買って きてくれた調味料・香辛料



ちびっ子も混じって、料理開始



おいしくできたぞ！！



今日の献立は、グリーンカレーとココナッツのデザート



いただきま〜す！！



交流を通しての成果と課題

1 成果

- 街中で、お世話になった外国人の方に挨拶ができた、話かけられるようになった
- 外国人への偏見の壁がなくなった
- 交流をした人の国が、親しく、また近く感じられるようになった

2 課題

- 本校は台湾に修学旅行に行っているの、台湾の人との交流を考えてもよいのではないか

第2部

市民の防災意識を向上させる活動

防災教育活動へのきっかけ 市島豪雨災害

平成26年8月16日
～17日

人的被害
負傷者 4名
死者 1名



住家被害戸数

	住家(戸)						計
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊			
				一部損壊	床上浸水	床下浸水	
柏原						9	9
氷上			2		35	307	344
青垣						14	14
春日			1	1	22	100	124
山南						3	3
市島	18	9	39		112	351	529
計	18	9	42	1	169	784	1,023

丹波市在住外国人は災害に不安を覚えている

- 警報と注意報の違いがわからない
- テロップは日本語なので読めない
- 避難場所もわからない

この人たちへの防災教育の必要性を感じて、防災紙芝居を思いつく

外国人用の防災紙芝居

- まず、日本語のセリフを簡単にして、同じ言葉を2回繰り返すようにする。
- コンピュータの翻訳機能を使って、フィリピン語、中国語に訳する。
- 最後に、ネイティブの方々に点検してもらう。

フィリピン人ママの指導で紙芝居を翻訳



国際交流の集い（丹波市在住外国人の集まり）にて多言語防災紙芝居（地震編）実施



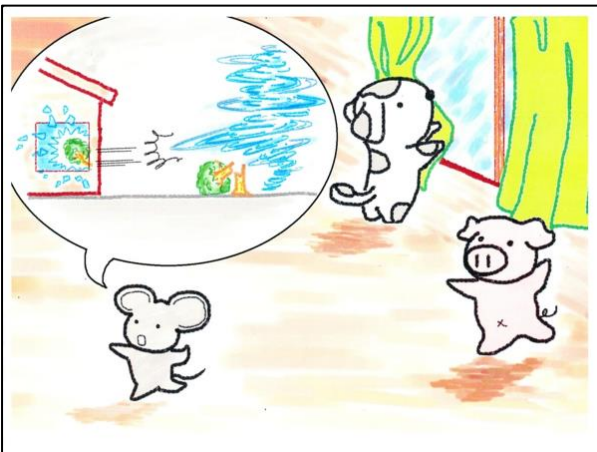
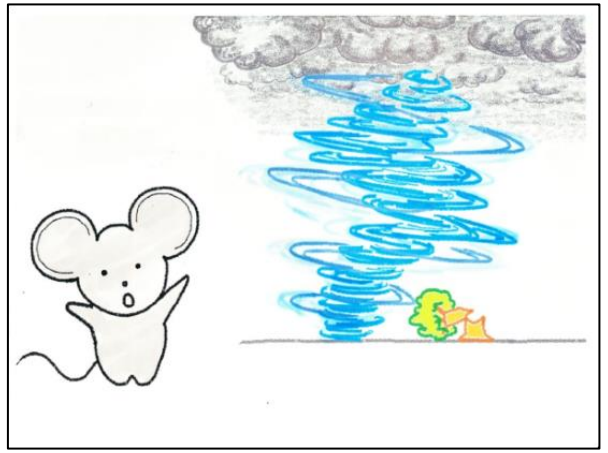
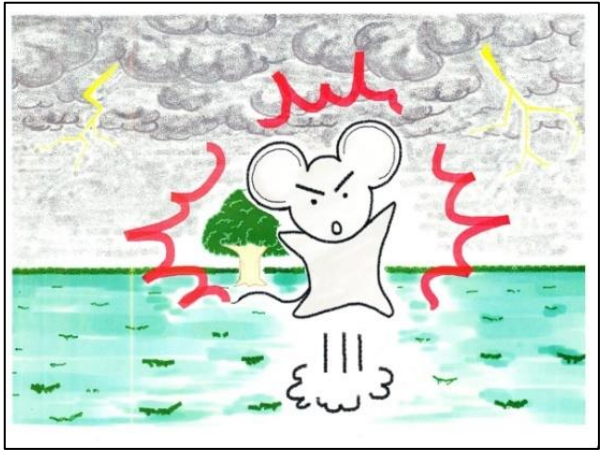
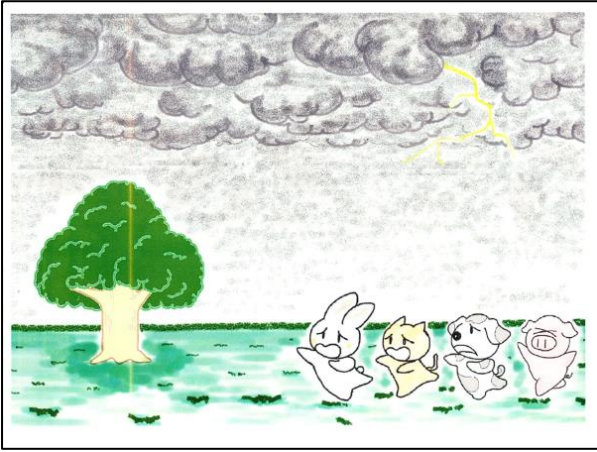
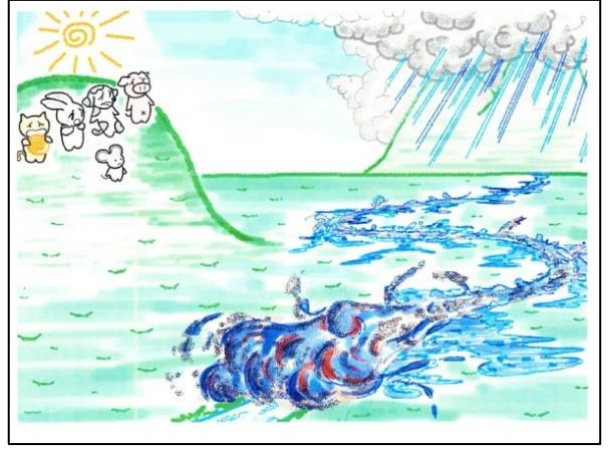
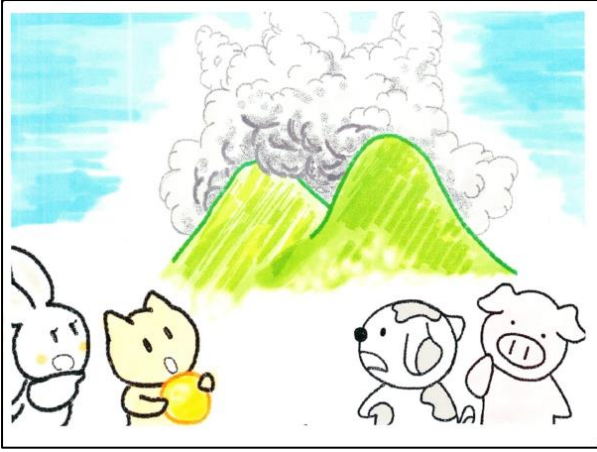
障がい者のふれあいステージにて防災紙芝居（地震編）（日本語）実施



豪雨・洪水防災紙芝居

- 気象庁仙台管区気象台作成
- 日本語のシナリオを、わかりやすく、簡単なセリフに直す
- 簡単な日本語のセリフを、英語とフィリピン語に翻訳





おしまい



防災紙芝居の実施の今後の予定

- 幼稚園・小学校での定期的な実施へ
(文化発表会の代休日に実施)
- 篠山学園（介護士養成専門学校）に
4月ベトナム人35名が入学
*ベトナム語での防災紙芝居実施へ

第3部

柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

車いすマップ作りのきっかけ

- 7年前、神戸の障がい者団体がJR「ひまわり号」を利用して、柏原に観光に来られた
- その時、観光案内ボランティアとともに、柏原高校インターアクト部が車いすを押すお手伝いをした

バリアフリーマップ作りへ 講師はバリカン京都の山本さん



ハンディキャップを感じさせない山本さん



5月 歩道への移動が困難



5月 歩道に上がるのに一苦労



5月 危険個所を記録します



10月 この歩道は狭い、電動車いすでは無理です



10月 この電柱、なぜこんなところに



12月 校門の鉄扉のレールも車いすには強敵～学校のユニバーサルデザイン化も～



12月 グレーチングの溝に前輪が



12月 斜めになった道路から歩道へ押すのに一苦労



今学期、車いすマップの完成へ

- もう1回の調査が必要
- 部員全員がマップ作りに参加
- 公衆トイレのバリアフリー化を調査
- がんばるぞ!!!

ボランティア活動を指導して1
～生徒の成長を感じる時～

- 外国人、障がい者、高齢者と接することにより、異文化理解
⇒スーパー高校生に
- 自信を持って活動ができるように成長していく

ボランティア活動を指導して2 ～ボランティアを依頼する側へ～

- 1 高校生ボランティアを安価な労働力と考えるのももらいたい
- 2 高校生が成長できるボランティアを依頼してほしい
- 3 私たちは、地域の特性に応じた独自のボランティアを実行していきたい

ご清聴ありがとうございました

青少年赤十字研究推進校設置要項

1 趣旨

青少年赤十字加盟校（以下「加盟校」という）における青少年赤十字活動の充実振興を資するとともに、未加盟校の啓発をはかり、もって青少年赤十字の充実振興を期するため、青少年赤十字研究推進校（以下「研究推進校」という）を設け、研究を委嘱する。

2 研究主題

研究主題は、次の活動に関するものとする。

- (1) 赤十字募金に関する活動
- (2) 防災に関する活動
- (3) 青少年赤十字の普及、育成に関する活動
- (4) 献血推進に関する活動
- (5) 奉仕活動に関する活動
- (6) 社会福祉施設における活動
- (7) 老人福祉の向上のための活動
- (8) 障がい者福祉の向上のための活動

3 研究推進校の指定及び決定

- (1) 研究推進校は、日本赤十字社兵庫県支部（以下「支部」という）が当該支部管内青少年赤十字加盟の小学校、中学校、高等学校から計6校を指定する。
- (2) 研究推進校の指定期間は1年間とし、原則として最長3年まで継続して申請することができる。
- (3) 研究推進校の指定については、兵庫県青少年赤十字協議会総会において決定する。

4 研究推進校の指定の申請

支部は毎年研究推進校の公募を行い、指定を受けようとする加盟校は、「青少年赤十字研究推進校指定申請書」（様式第1号）により4月末日（厳守）までに支部に申請する。

5 研究推進校の助成金の申請

- (1) 研究推進校の指定を受けた加盟校は、指定後速やかに「青少年赤十字研究推進校助成金交付申請書」（様式第2号）に、「助成金収支予算書」（様式第3号）を添えて、支部まで申請する。
- (2) 支部は研究推進校の研究等に必要な経費（別表参照）について、年度あたり8万円を上限として助成する。

6 研究発表及び報告

研究推進校は、「青少年赤十字研究推進校活動状況報告書」（様式第4号）及び「助成金収支報告書」（様式第5号）を、翌年度4月末日（厳守）までに支部に提出する。期日までに提出されない場合は、翌年度の申請を受け付けない。

また、活動状況等の報告を支部が開催する「兵庫県青少年赤十字研究会」において、研究発表を行う。

付 則

本要項は、昭和57年4月1日制定実施する。

本要項は、平成元年4月1日一部改正実施する。

本要項は、平成18年12月20日一部改正実施する。

本要項は、平成19年4月1日一部改正実施する。

本要項は、平成20年11月1日一部改正実施する。

本要項は、平成22年1月5日一部改正実施する。

本要項は、平成26年12月20日一部改正し、平成27年4月1日から実施する。

本要項は、平成27年12月15日一部改正し、平成28年4月1日から実施する。

青少年赤十字研究推進校一覧

日本赤十字社兵庫県支部

年 度	学 校 名	研 究 主 題
H 2 8	宝塚市立山手台小学校	「創造とチャレンジ」 ～様々なことにチャレンジし、より良い自分、より良い学校、より良い地域を創ろう～
H 2 8	篠山市立城南小学校	「気づき・考え・実行する」 主体的に判断し、行動する児童をめざして
H 2 8	西脇市立黒田庄中学校	「健やかでうるわしく 和やかでよく働く 自力でなしとげる」を目標とした生徒の育成
H 2 8	猪名川町立六瀬中学校	「みつめよう命、つなげよう絆、救おう地球」 ～ふるさとから学び、ふるさとに貢献し、グローバルに活躍する人材を育成する～
H 2 8	兵庫県立鳴尾高等学校	奉仕・国際理解 ～地域・世界の一員として～
H 2 8	兵庫県立柏原高等学校	「丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動」
H 2 9	芦屋市立精道小学校	阪神淡路大震災を語り継ぐ
H 2 9	宝塚市立未成小学校	学校・家庭・地域の連携を基盤にした、安心・安全、みんなに優しいまちづくり
H 2 9	西脇市立黒田庄中学校	「健やかでうるわしく 和やかでよく働く 自力で成し遂げる」生徒の育成
H 2 9	猪名川町立六瀬中学校	「共創的な対話が生み出す、つながる地域、そして、みんなの地球」～ふるさとから学び、ふるさとに貢献し、国際社会で活躍できる人材を育成する～
H 2 9	兵庫県立鳴尾高等学校	奉仕・国際理解 ～地域・世界の一員として～

H 2 9	兵庫県立柏原高等学校	①丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動 ②市民の防災意識を向上させる活動 ③柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成
H 3 0	芦屋市立精道小学校	阪神淡路大震災を語り継ぐ
H 3 0	宝塚市立未成小学校	学校・家庭・地域の連携を基盤にした、安心・安全、みんなに優しいまちづくり
H 3 0	篠山市立城南小学校	「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」
H 3 0	兵庫県立柏原高等学校	①柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成 ②丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動 ③市民の防災意識を向上させる活動

研究会における発表の風景











 日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society